自分らしく！

北海道教育大学岩見沢校　芸術過程　美術コース　書専攻　○○○○○

　まず始めに、合格体験記を書かせていただくことに際し、合格まで私を支えて下さった家族や友人、先生方に感謝したいと思います。正直なところ、私は後輩のみなさんの模範になれるようなことは出来ていなかったでしょう。ですが、少しでも参考になれば、最後まで読んでいただけたら、幸いです。私が受験したのは書専攻という、書道に関して実技を中心とした勉強をするところで、周りの友達と比べても特殊な点がいくつかあるところでした。書専攻の推薦入試内容は、面接と持参作品による総合評価。私は、勉強に関してアドバイスできることはないので、実技と面接に関して書きたいと思います。こんな人もいるんだなと思って見てください。

【実技】
岩東には…書道部、ありませんね。なので、私は高校１年生の時から御縁もあって札幌の書道教室まで週に１回程度、通っていました。入会した当初から自分がどんなところにいきたいのか、そのためにはどんな対策をとっていくべきなのかを伝え、恐縮ながら私の受験に協力していただくことになりました。推薦の場合はいくつか自由に作品を持参し、評価してもらうという形ですが、一般の場合は、２次試験で与えられた課題を決められた時間内で書きあげ提出するというものです。推薦がだめだった場合のことも視野に入れつつ、古典の臨書、近代詩文の制作に打ち込みました。ここで大事なのは、その作品に対する自分の考えや思いを明確にしておくこと。何故その題材を選んだのか、どんなところに気を配って書いたか、しっかりと文章にして残しておくことをお勧めします。これは面接でも必ず聞かれることです。また、作品制作をするうえでは基本となる部分であり、何よりも重要なことだと私は思うので、書道でなくても実技系を含む進路実現を目標にしている方は、こういった自分の思いや考えをしっかりともち、大切にしてほしいと思います。１・２年時は過去問の傾向を調べ、出題されるものを書道教室の先生と推測しながらとにかく基本を積み、展覧会などにも積極的に出品しました。入賞成績などは推薦入試の場合、少なからず影響してくるので、自分に挑戦するという意味でもできることはやっておいたほうがいいと思います。本格的な作品制作に取り掛かったのは３年生になってからでしたが、もう少し余裕を持ってやればよかったなというのが本音です。余裕があるのとないのじゃ集中力もだいぶ違うと思います。実技系は自分のスタイルを崩さずに落ち着いてできるようになることが最善策ではないでしょうか。

【面接】
面接練習ではかなり苦労しました。うまく伝えられない、まとまらない、しゃべる内容が長いと言われ、ただの印象いいだけの人だと言われ…何度も何度もノートや裏紙に自分の思いを書いては消して、練習しては反省しての繰り返し。そんなこんなで、「もう大丈夫だ」なんてもちろん言われることはなく、練習を終えることに。それでも、家族や友人、先生方は温かく、「〇〇らしくね！」という言葉に背中を押されました。本番では、予期せぬ質問の嵐で際どいこともたくさん聞かれ、若干自棄にもなりましたが、それでも、私はこの学校に入って書道を勉強したいんだ！という強い気持ちで、素直に自分の気持ちを伝えました。面接で必ず成功する方法があるなら、私も知りたいです。でも大事なのは、〝自分らしく〟ということではないかなと私は思います。試験官に何と思われようが関係ない！後先考えた取り繕いなんて必要ない！大事なのは、自分自身と真剣に向き合うことだと思います。真剣に向き合えれば、何か見えてくるものもあるだろうし、ちゃんと自分を見てくれる人も現れるはずです。

☆最後に
私に書道の才能はないです。努力はしているつもりですが、もしかしたらそれは紙の無駄遣い、墨の無駄遣い、つまり私はただの環境に優しくない人になっているのかもしれません。もしそうだとしても、才能がないと言われても、書けなくて思い悩んで嫌になっても、書き続けられているのはなぜか。答えは単純で、書道が好きだから、ということにつきます。これが私なんだなと思います。ひとりひとりみんな違うから、生き方も頑張り方もそれぞれです。色々な経験をして、岩東という素晴らしい環境での高校生活を楽しんでください。自分らしくね！(*^^*)
まだまだ未熟な私も、これからです。皆さんと一緒に頑張ります！最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

高校３年間の軌跡

項目	１年	２年	３年
進路希望の推移	岩教　書専攻	岩教　書専攻	岩教　書専攻
推薦したい参考書や問題集等	教科書、授業でもらうプリント、速単、ネクステ		